

水稻の作柄に関する委員会（平成21年産第2回）議事要旨

1 開催日時：平成21年8月28日（金） 13:00～14:45

2 開催場所：農林水産省大臣官房統計部第3・4会議室

3 出席者：【委員・専門委員】

染英昭座長、秋田重誠委員、黒田栄喜委員、近藤始彦委員、
長谷川利拡委員 山岸順子委員、渡辺典昭委員
安藤勲専門委員、山本貞郎専門委員代理、金森正幸専門委員代理

【事務局】

大臣官房統計部長、生産流通消費統計課長、他

4 議事

平成21年産水稻の8月15日現在における作柄概況調査結果及び次期調査に当たって留意すべき事項について

5 議事概要（○：委員からの発言 →：事務局等からの発言）

事務局から平成21年産水稻の8月15日現在における作柄概況調査結果について説明後、各委員から意見・提言を受けた。

○ 出穂前後に日照が不足している地域が多いため、もみ数が平年を下回るころが多かった。しかし、8月中旬以降、天候は回復し、今後も温度がそれほど高くなく、晴れの日も多くなる予報なので、大きな登熟障害はなさそうだ。

また、次期調査に当たっては、登熟状況、いもち病の発生程度に留意する必要がある。

○ 7月から8月上旬の出穂開花期頃までの日照不足は、登熟の初期の段階に影響を及ぼすのではないか。

次期調査に当たり、低温・日照不足がもみの千粒重にどのように影響しているのか注意する必要がある。

○ 北海道での品種構成やその他地域での疎植化による穂数への影響を考える必要がある。

○ 日照不足による登熟不良、軟弱徒長気味による倒伏が懸念される。

○ これまでの日照不足に加え、西日本において今後温度が高くなると予想されているため、この地域での高温の影響に留意する必要がある。

- 北日本での生育ステージを勘案すると、主産地の低温時期が危険期の直前であったため、被害は一部にとどまるのではないかと。

次期の調査に当たって、北日本、特に北海道での障害型冷害の発生状況、低温・日照不足が登熟及び米品質に及ぼす影響、病害虫の発生状況、今後の台風や集中豪雨の発生状況に留意する必要がある。

これらを踏まえ、さらに以下の意見・質問等があった。

- 今後の気温が高めに推移するという予報については、最高気温のことなのか、それとも平均気温のことなのか。夜温が高くなると、登熟への影響が気になる。
- 3か月予報での9月の天候は、移動性高気圧に覆われるようなかたちで、朝、晩の気温は下がるが、日中の気温は上がるため、平均すると気温は上がるだろうと発表した。直近の1か月予報では、湿った大気が日本付近に入ってきているため、最低気温もそれほど下がらないという予報である。
- 北海道の「ななつぼし」は、もみ数が多くなる品種なのか。また、「ななつぼし」の作付けシェアは上がってきているのか。
→ 「きらら397」よりはもみ数は多い。また、聞いている範囲では、「ななつぼし」は平成15年に9%だったが、平成20年には35%、さらに今年はもう少し上がるのではないかと考えている。一方、下がっているのが、「きらら397」で平成15年に59%あったが、昨年は36%で、今年も若干減っている傾向にある。

上記質問・意見を踏まえ、委員会としての意見をまとめ、その場で了承された。
(http://www.maff.go.jp/j/press/tokei/seiryu/090828_1.html)

(参考)

○会議及び議事録を非公開とする理由

今回開催した水稻の作柄に関する委員会については、当年産の水稻の作柄に関して、学識経験者等から専門的な見地から意見を聴くために開催している。その内容は、個人・地域における水稻の品質、収量等に関する事項等、特定の個人若しくは団体に不当な利益若しくは不利益をもたらす恐れがある事項が含まれること等から、会議及び議事録を非公開としている。